

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191600014), 法人名 (有限会社 グループホーム・和), 事業所名 (グループホーム・あかり), 所在地 (松山郡江差町字田沢町492番地8), 自己評価作成日 (平成26年2月26日), 評価結果市町村受理日 (平成26年4月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長い人生の中で積み上げてきたその人らしい人格が束縛されることなく、安心と尊厳の中でその人らしいごく普通の暮らしができる支援をしています。
具体的
1. その人の心身的能力に応じた地域参加・・・町内会各行事(地域交流会・児童保育園交流・お祭りなど)
2. その人の生活背景からあたり前の暮らしの継続・・・回想法・五感刺激(自然にふれあう)・調理手伝いなど、自然とのふれあい
3. その人の残存機能維持、向上に伴う介護予防・・・その人のどの部分に働きかけどの部分を維持するか→おしゃべり・唄う・散歩・歩行訓練・足湯・温泉・山菜採り・あんまマッサージ指圧

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0191600014-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年3月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江差町の郊外で近隣に道立江差病院がある。山菜が豊富な地域で足湯温泉や海も近く、自然豊かな環境に恵まれている。事業所内は檜を基調とした調度品があり、明るくゆったりとした中に温もりを醸し出している。2ユニットのグループホームとデイサービス、高齢者下宿と併設している1ユニットの当事業所は、玄関ロビーに町より委託されている移動図書があり、下宿を利用しているマッサージ師の治療室もある。デイサービス利用者や近隣の方々がマッサージや本の貸し出しに訪れ、利用者と交流の場となっている。施設長は利用者の就寝前にゆっくり傾聴するのを日課とし、信頼関係を築くと共に、安心感を与えている。新規事業の開設で新体制となって日が浅いが、職員は利用者の尊厳を守り、地域の中でその人らしく暮らせるよう支援している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念に基づき、その人らしい人生を最大限尊重されるよう具体化された介護を基本理念とする	地域との関連性を重視した「基本理念」と利用者の尊厳と安心、安全を守る「介護理念」を掲げ、職員間で共有し、意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催しもの(お祭り・三世代交流会等)に参加し、地域ボランティア(除雪、清掃活動)や園児の訪問を常に受け入れ交流している。	利用者は町内会活動の清掃や三世代交流に職員と一緒に参加し、近所の方々の協力で除雪や野菜が届けられる。実習生の受け入れや園児の訪問があり、地域とは密接に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアや園児の訪問、家族の面会時等、様々なシーンで認知症の理解や支援方法を伝えるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催。地域の方、家族等に事例を報告し、意見やアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。	町担当者、町内会、社協、家族などの参加で3ヶ月毎に開催している会議は、事業所の現状報告と新規事業の説明、外部評価の取り組みなどが活発に討議、検討され、サービスの向上に活かしている。	各職域や地域、家族全員の参集を図り運営推進会議を開催しているが、3ヶ月毎の開催であるので、2ヶ月毎に開催することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は常に取り合い、相互に行き来し協力関係ができています。	町担当者とは、事務長や管理者が相談や、入居状況の情報提供、介護保険の更新、移動圖書の受託など協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で拘束廃止委員会を設け、常に職員が把握、また研修に参加し全職員で勉強会をしている。 ただし、命にかかわる危険がある場合は家族の同意を得た上で、また医師の判断も考慮して拘束もありうる。	年4回、拘束廃止委員会による内部研修会を実施し、個々の利用者に合わせて安全確保について討議している。低床ベッドの使用、クッションの利用、安眠剤の減少など、多岐にわたり検討し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議を利用し、事例を通して研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は、利用者個々の自立とは何かを学び理解し合い支援に努めている。また、書類や収支について関係機関と連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者・家族の思いに寄り添い、不安や疑問点を納得していただけるまで説明を行っている。退去についてはその後の方向性まで話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の要望に耳を傾け、些細なことも職員間で話し合い支援方法を考え、チームケアで支援している。家族への報告・運営推進会議で報告を行っている。	家族からの意見や要望は、気軽に話し合える雰囲気づくりに留意し、表出された課題はミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる全体会議及び管理者会議では、事業運営も含め現場からの報告も行って。ミーティングや休憩時間など、日頃から話しやすい関係を作り意見や要望を聞けるよう心がけ、本人ご家族の思いが早くかなえられるよう努めている。	職員はミーティングや休憩時間を利用して意見や要望を伝え、管理者会議の中で話し合い反映させている。必要に応じて事務長と管理者は個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別性を重視し、子育ての中の職員や通院日への配慮も含め働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	戸外研修や勉強会への参加を促し、ホーム内での報告会・実践を通して介護員としての実践と向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや檜山振興局主催の介護職員研修、介護支援専門員の勉強会が行われ情報交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族から生活歴や入所にあたっての希望や不安を細かく聞き、不安を除き、会話を大切にすることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や希望を汲み取り、最大限の社会資源を活用し要望に応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等とのアセスメントを繰り返す行うことでニーズを見極め、他事業所・医療・地域との連携により、よりよいサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事を通して生活を共にすることで、信頼関係を構築している。利用者が困ったときは手を添え、利用者ができることは行ってもらい、人生の先輩から学ぶことは多く、その持っている力を発揮できるよう場づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を電話連絡や面会時に報告し、またおたよりで伝えることで、生活を共有し協力いただいている。家族の役割はかかせない存在で、支援全てにおいて大きな役割を果たしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々ではあるが、電話・手紙や面会は自由。理美容も自由で、本人の行きつけのお店に行く方や、多くは近くの理美容院を利用(カット訪問してもらおう)している。希望により買物も馴染みのスーパーに出かけている。	利用者の希望により行きつけのスーパーや理容院、美容院に出掛けている。職員は電話の取次ぎや手紙の宛名書きの代筆と投函を行い、関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立者のないよう個々の趣味特技を引き出しながら関係作りに努めている。その状況は常に全スタッフが共有し関わりを持っている。又場合によっては席替えをしたり、常に気持ちを穏やかに保つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も常に気になるところで、その時の状況にあわせて訪問したり、不意の出会いなどにおいて状況を把握する場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で暮らしや過程を、会話から思いを引き出し、家族と共有している。全スタッフも記録やミーティングで把握している。意思表示が困難な方には表情で察知したり留意している。	利用者の生活歴と家族からの情報を参考に日々の関わりの中で、表情や動作から意向の把握に努め、その人らしく暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人の生活とその背景を知った上でのケアに努めている。また、友人や知人との関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状況に応じて、無理のない範囲で調理仕事や掃除・裁縫等の仕事を共に行っている。その方の思いを大切にしよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、日々のミーティング・事例検討・ケア会議などを通じて、本人の全体像の観察、情報とモニタリング、本人家族の意向を話し合っている。また、担当職員も状況把握を行い細かいケアにつなげている。	介護計画原案を基に、本人、家族の要望と医師の意見書を取り入れ、日々のモニタリングを経て全体会議で職員と課題を検討し、現状に合った介護計画を作成している。介護日誌に計画の実施が記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録により生活状況がわかるようにしている。ケアプランに添ったケアを番号で記録し家族がみてもわかりやすく記している。早急なケア変更時はミーティング・申し送りで連携している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて本人の受診を代替することもある。また、本人家族の状況で、行事を含めて必要時家族との絆り、家族より畑の種や野菜が提供され、収穫を楽しむことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、伝統行事を披露してもらっている。また、散歩で四季を感じながら足湯へ外出(車で行くこともある)、移動図書館(貸し出し場所として町に依頼した)を利用し楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については契約時に十分理解を得られている。受診時家族同伴の方もいるが、都合により職員も対応している。他科、他病院についても介護連絡を密に、家族とも連携がとれている。	本人、家族の希望により、従来のかかりつけ医の受診は可能である。遠方の受診は職員が同行している。近隣の道立江差病院と緊急時の体制も整えており、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子がおかしい時は即かかりつけ医の看護師に連携をとりながら個々の支援にあたっている。看護師から医師に確認をとってもらい指示をいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームより情報はもとより家族、看護職、主治医との連携を密にしている。入居中の生活延長と考え、見舞い・生活面のお世話(買物、洗濯もの等)を支援している。早期退院を望んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちょうなことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族には状態変化がある度に連絡、特に遠隔地の家族には配慮。変化がある時は救急外来を利用するなど注意を払っている。終末期については契約時に説明し、ホームでの可能・不可能も明確にしている。	終末期の対応について、契約時に家族に説明している。職員は外部研修会の資料を参考にして、内部研修会を実施している。	重度化や終末期における対応やケアの手順について、マニュアルを整備し、職員間で共有しているが、事業所としての指針を明確にすることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は25年度に実施しており全員把握している。異変事対応マニュアル、連絡体制は出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を行っている。併設のデイや下宿と合同に、町内の参加も得ながら夜間を想定した訓練も実施。避難経路・消火設備・スプリンクラーの確認もできている。布団やクッションを利用した避難方法も熟知。	年2回、併設のグループホームやデイサービス、高齢者下宿と合同で、地域の方々の参加で防災訓練を実施している。避難場所や備蓄も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にあった声かけ対応に努めている。個人情報も留意し、人格を尊重して誇りを損ねないケアに努めている。	職員は声かけや移動時の動作や会話の中で、尊厳を傷つけることのないよう配慮し、さりげないケアを心がけている。個人に関する書類は一定の場所に保管している。	
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節や行事、月日をヒントに、個々人のわかる力に合わせて働きかけている。本人の特徴、表現の仕方を把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の顔あわせで心身の状況を把握し、各々にあった1日の過ごし方を支援している。居室で読書、あんまマッサージを受けたり、併設のデイサービスへ遊びに行ったり希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみになるよう衣服のサイズのアドバイスをしたり、好みの髪型も理美容院にも伝えられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に配慮した食事を心がけ、畑で収穫した野菜、家族や近所からの差し入れ、地元の魚・野菜の新鮮な食材が食卓を豊かにしている。各々の力や体調にあわせて調理等に希望をとって参加、あるいは見学にて楽しい食事になるよう心がけている。	献立は職員が作成し、家庭菜園で収穫した野菜と、家族や近所から届く野菜や魚、散歩の時に採った山菜が食材となり、季節感にあふれた料理に気を配り、利用者は料理の下ごしらえや盛り付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好品については把握しており、家族と協力して購入・提供する。職員と一緒に買物にも出向き品物を選んでいく。食事や水分量チェックもその人によっては毎日行い、一人一人の状態や自立度に合わせた食事の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた支援を行っている。食後すぐに歯磨きしたくない人には、時間を見て声がけをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、また様子・表情を察知してさりげない声がけ、促しをしている。快適に排泄できるよう本人への声がけパットの渡し方も工夫している。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、声がけや、手引き、時間誘導などそれぞれに応じて排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事、水分状況やパターンを把握し予防につなげている。毎日牛乳を定時に摂取している(希望でもある、個々によって飲みたい時間帯は違う)。便秘薬だけに頼らず乳製品や野菜ジュースをおやつに出したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3～4日入浴を実施。温泉も週2回利用している。温泉入浴は(シャワー浴でも)楽しみにしている人が多い。入りたい時間帯やお湯の温度順番も希望にそっている。	温泉の大浴場はデイサービスと合同であるが個浴もあり、利用者は好む方を選択して週3回から4回の入浴をしている。拒否傾向の時には、タイミングを見計り、強制することなく支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に身体的活動は午前中に、午後はゆったりと過ごし、穏やかに就寝できるようにしている。就寝前に座談や、あるいは悩みを聞きながら飲料水を提供したり、と安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議や毎日のミーティング、申し送りノートで確認。さらに注意点については常に職員が把握できるようにしており、症状に変化があるか確認報告し合って記録もつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事や買物支援等、一人一人の特徴や好みも把握しており、個々の力に合わせて支援している。自分の役割として感じている様子。催事の飾り作りも一緒に行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時は希望をとって散歩や外気浴を日常的にしている。ドライブにより近くの風景・四季の移り変わりを楽しんでいる。コンビニに徒歩でリサイクル品を届けたり、足湯・買物・地域交流に参加したりしている。	天気の良い日は、散歩や山菜採り、家庭菜園の手入れ、近くの浜辺で綺麗な石を集めて潮の香りを全身で感じたり、季節ごとの遠出のドライブは利用者の社会性の維持、向上に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い所持金を把握している。希望により物品購入の支援をしている。また、お零銭として小銭の所持もある。個人の思いを大事にしご家族と連携しタイミングを見て渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などは自由としはがきの購入、投函の支援もしている。電話は家族の在宅している時間とし、ゆったりとして話されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物には地元の木材を多く使い、天窓など明るさにも配慮したぬくもりある空間にしている。台所の音・匂い・動きが直接感じられ食欲促進につなげている。玄関・ホール・食卓には季節にあった植物も飾る。大きい窓からは、四季の移ろいを感じ、学生のマラソンする姿や車の行き来する様子もみられる。	事業所内は木材を基調とした造りで、明るく広々としている。玄関ロビーにあるテーブルや木工品も檜や道南杉で造られ、安心感と温もりを醸し出している。デイサービスのマッサージ師の診察室と、町の委託の移動図書があり、地域の方々が気軽に立ち寄り、観葉植物や季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席、座る向きにも配慮した居場所作りが心にかけている。読書が楽しめるような本棚の配置や訓練室でのソファでの座談、安全な見守りのもと自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、使い慣れた家具・仏具・身の回り品や写真があり心地よい生活を行っている。	居室は馴染みの家具や日用品があり、位牌のある利用者は、毎朝、お水をあげて従来の生活習慣を変えることなく暮らしており、家族の写真を飾り居心地の良さに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全バリアフリー、階段の段差も低く、トイレ等も使いやすいよう工夫されている。車椅子の自走がしやすいように家族と相談して戸口をはずし、カーテンでプライバシーへの配慮もしている。ベッド下の足元に滑り止めマットを敷いたり、たっちあぶを設置し安全・自立した生活を支援している。		